令和６年度　小樽市立稲穂小学校　学校経営の基本方針

令和６年３月２５日
校長　遠　藤　隆　典

誰一人 取り残さず全ての子どもの可能性を引き出す教育の実現を目指して

～R6 目指す学校像「子どもの主体的な学びを支え、伴走していくあたたかい学校」～

コロナ禍でデジタル化を含む社会の変化は急加速し、我が国はいよいよ超スマート社会（Society5.0）に移行したと言われている。急速な社会変化に伴う多様な社会課題にあふれる日本社会においては、今までにない新たな価値の創造により持続可能な社会へとつなげる発想･施策での大胆な改革が不可欠になっている。

学校教育においては、未来の担い手となる子どもの姿として「令和の日本型学校教育」で目指す子どもの姿として、「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓こうとする子ども」の実現が求められている。また、それを担う教職員の姿として、「変化を前向きに受けとめ教職生涯を通じて学び続ける」「子ども一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たす」「子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力も備えている」、という教職員の姿が求められている。

これらをふまえ、全教職員で学校の組織連携体制・業務･授業及び教育活動を様々な視点から見直し、教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進を図り、変革につなげ学びの質を高めていかなければならない。そして、学校における教育活動一つ一つを充実させ、子どもたちに、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手として、主体的に社会の形成に参画するための資質・能力を確実に育成していくという学校の責務を意識して学校運営を進めていかなければならない。

令和 6 年度稲穂小学校は、教育目標「りこうで　たっしゃで　ほがらかな　稲穂の子」の具現化へ向けた学校経営方針として、**誰一人取り残さず全ての子どもの可能性を引き出す教育の実現**を目指す。

具体的には、子どもたちが「主体的に学ぶ力、探究していく力」を確実に身に付けられるように、**子どもが主体的に取り組んでいるか**という視点で授業等の教育活動の見直しを継続していく。また「チャレンジ 2024」など子どもが主体的に行動していく活動機会を年間を通じて工夫し実施しながら主体性を育む教育活動へと充実を進める。

主体性の育成は、本校にとどまらず日本全体的な課題である。日本財団 18 歳意識調査「2022 国や社会に対する意識調査報告書」によると、「自分には人に誇れる個性がある」「他人から必要とされている」「何か夢中になれることがある」「将来の夢をもっている」「将来が楽しみである」「新しいことに挑戦したい』等の様々な回答において、回答国の中でほぼダントツの最下位という深刻な状況である。

このような現代社会の状況を鑑み、全職員で教育活動の充実を図り、子どもたちに、自分自身への自信を与え、自己肯定感・自己有用感を高め、主体的に取り組んでいく心を育んでいけるよう目指す学校像として**「子どもの主体的な学びを支え、伴走していくあたたかい学校」**を掲げ、学校運営を進めていく。子どもたちが身近な生活における様々な事象から解決すべき課題を自ら見出し、主体的に考え、課題解決に向け多様な立場の者と協働的に議論し、納得解を生み出していく**探究的な学習の経験を数多く重ね**させ、資質・能力の育成につなげていく。

そして、全ての教育活動で学びの質を高めていくために、子どもが学校生活における様々な活動に自分ごととして**主体的に考え判断し行動していく力**を育成の重点に掲げて、全職員で一体感・統一感のある学校力を高めた取組を進めていく。

Ⅰ　教育目標

「りこうで　たっしゃで　ほがらかな　稲穂の子」

知・徳・体をバランスよく育成し、社会と主体的に関わる力をもち、平和で民主的な社会を構成する社会の形成者を育成することを意味している。

Ⅱ　学校経営方針

誰一人取り残さず全ての子どもの可能性を引き出す教育の実現を目指す

（１）	学校組織マネジメント	・目標共有→学校運営参画意識、改善サイクル、教育 DX
（２）	教育課程の創造	・「主体的・対話的で深い学び」の実現 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による学び GIGA スクール構想推進、教育 DX
（３）	学級経営の充実	・特別支援教育の視点を踏まえた安定した学級経営、ＵＤ化
（４）	教員の指導力向上	・アセスメントに基づく適切な児童理解と支援、育成指標活用
（５）	「働き方改革」	・教育 DX、学校運営組織の協働性の強化、タイムマネジメント

Ⅲ　R6 学校力推進の柱

■特別支援教育の視点を基盤にした教育活動の推進

■全職員によるあたたかいかかわり（チーム稲穂小スローガン「あたたかいチーム力」）

■課題を見つけ自ら考え判断し行動していく力を高める教育活動の創出

Ⅳ　R6 目指す学校像

「子どもの主体的な学びを支え、伴走していくあたたかい学校」

Ⅴ　R6 目指す子ども像　◎R6 重点

○ わかったことや思ったことを伝えることができる
○ 自分の体を知り、体力向上や健康に気を付ける
◎ より良いものを作り出すため協働できる
○ 人の話や文をしっかりと理解する。
○ 学習したことや他の意見をもとに答えを見付ける
◎ より良い行動を考え、進んで取り組む
○ 自分も相手も価値ある存在として大切にする
○ 自他の命を大切にした行動をとることができる

８つの具体的な子どもの姿を学校全体で６年間かけて育成すべき指標としている。この具体的指標を目指す姿として教職員･児童･保護者で共有し、統一感のある教育につなげていく。

各学年、各時期の指導の目標として「稲穂小学校キャリアパスポート（ＩＣＰ）」として明確に設定し、全職員で共有しながら全教育活動を通して検証していく。

今年度は、主体的な姿として、「協働していく」と「進んで取り組む」という姿を重点として、その具現化を目指していく。

Ⅶ　R6 学校力向上へ向けた教育活動推進の重点

Point Ⅰ　学校全体で一体感のある生徒指導
（あたたかいかかわり、いじめを絶対に許さない「いじめ見逃し０」）

Point Ⅱ　心理的安全性の高い学級・職場づくり
（支持的なあたたかい学校風土の醸成）

3/25 追加部分

Point Ⅲ　相談しやすい学校の実現
（複数での児童理解と寄り添い等の組織的対応の実施）

Point Ⅳ　創造的･協働的に業務を推進し教育活動の充実を図る組織運営
⇒自律分散型の組織へ

Point Ⅴ　教育 DX の推進　　※DX3 段階（デジタル化→最適化→新たな価値）
①ICT を活用した包括的な学校改善
■DX･･･働き方改革×ICT　⇒　業務の効率化、情報共有、時間の創出
②個々の資質・能力を育む授業・教育活動への工夫・改善
■学習基盤・・・支持的あたたかい学級風土、自己肯定感の高まり
情報活用能力の系統的な育成
■DX・・・授業改善×ICT　⇒　主体的に学び進める力の育成
指導方法・工夫改善・専科指導の充実
学びの保障×ICT　⇒　オンライン配信、不登校児童への対応等

Point Ⅵ　自他を認め思いやり、目標へ向け自ら行動し、協働していく心の醸成

Point Ⅶ　体力向上や健康に気を付け、望ましい生活習慣へと課題を見つけ
自己調整していく力の醸成　チャレンジ 2024 の取組

Point Ⅷ　地域で子どもたちの学び成長を支える地学協働の推進
（地域と学校の win－win を目指す CS・PTA との連携　及び
持続可能な体制づくり、9 年間で資質・能力を高める小中一貫教育の推進）

【北海道教育委員会「学校力向上に関する総合実践事業」指定校】

今年度も道教委の施策である「学校力向上に関する総合実践事業」の地域指定中核校として、下記の視点で取組の実践検証を進めていく。

①高学年における教科担任制による教科指導の専門性や授業の質の向上
②働き方改革を見据えた ICT を活用した包括的な学校改善
③中学校との一貫教育の推進
④共同学校事務室経営を推進していく。

【教員養成志望大学生への連携サポート（北翔大学生の学校体験の取組）】

R5 年度の引き続き、R6 年度も北翔大学の教員養成課程の学生の学びの連携協力事業として学校体験を受け入れ、人材育成に貢献していく。

Ⅷ　R6 年度　道徳教育の重点

〇自律的に判断し、自ら行動していく態度を育てる
〇目標へ向け、希望と勇気をもち、努力しやり抜こうとする態度を育てる

特別な教科道徳における重点内容項目・・・・・・「自律、希望と勇気、努力」

Ⅷ　小樽市教育推進計画にかかわる取組

『小樽市教育推進計画』（令和元年 12 月策定）に基づき、「具体的に目指す子どもの姿」の実現を目指して、以下の５項目について具体的な目標を定めて取り組む。

評価の方策・・・(児)児童アンケート　(保)保護者アンケート　(教)教職員学校評価

（１）未来を創る力の育成

急激な社会的変化の中にあっても、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を身に付けることができるように以下の６点に取り組む。

1	**確かな学力の育成**	全国的学力調査の平均正答率が全国以上
2	**特別支援教育の充実**	特別支援教育に関する研修を５回以上実施と、通常学級における特別な支援を要する児童の指導計画の中間検証・見直しの 100%実施
3	**国際理解教育の充実**	（児）「外国語を使いたいと思う」肯定的回答、第３学年以上で 80％以上
4	**理数教育の充実**	（教）「算数・理科の授業で考えを説明したり話し合う活動を日常的に取り入れている」肯定的回答 90％以上
5	**情報教育の充実**	（児）「タブレット端末を用いて自分で工夫して情報活用している」肯定的回答が、４学年以上で 80％以上
6	**キャリア教育の充実**	勤労観や職業観を育む施設見学や外部講師の授業を第３学年以上で実施

【具体的取組】

①特別支援教育の視点で、全学級で個々に丁寧に目を向け、特性や困り感に応じた特別支援的な教育的配慮と指導を行う。そして、個々が主体的に学び進める授業へ向けた実践検証を行う。

②「小樽　授業づくりの５つのステップ」を踏まえ、各教科等における育てる資質･能力の定着を目指した授業づくりを各自工夫し、日常的に授業改善を進める。

③目指す姿として「稲穂小学校キャリアパスポート（ＩＣＰ）」を教職員･児童･保護者で共有し、各教科等の指導での重点化を図り、具現化へ向けて取組の検証を行っていく。

④各種調査･チャレンジテストなどの取組と結果の検証から、本校児童及び本校の取組の課題を共有し、授業改善と充実につなげていく。

⑤「令和の日本型学校教育」をふまえ、タブレット端末等 ICT 機器やデジタル教科書を効果的に活用した授業や UDL の視点での授業など、子ども一人一人が主体的に個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させながら学び進める「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向け協働的に研修を深めながら授業改善を進める。

⑥ICT を効果的に活用し、確かな情報活用能力の育成を図りながら、主体的に探究していく力の基礎となる資質・能力の育成を目指した授業実践に取り組んでいく。

⑦高学年の教科担任制により専門性の高い授業実践を行い。専科教科で育むべき資質・能力の確実な定着を進める。

⑧ 外国語活動の充実と、外国語科の趣旨を踏まえた指導の実践・充実を図りる。

⑨ キャリア教育の観点から人々の働く姿や講話などの体験的な学びを通して、働く意義を理解させる。

⑩ 「総合的な学習の時間」をねらい･内容･指導計画を見直し、各教科で身に付けた資質・能力を教科横断的に発揮しながら探究していく力を育てる活動へと改善していけるように研修を重ね、再構築を進める。

（２）豊かな心の育成

子どもたちの基本的な倫理観や規範意識を身に付けさせるとともに、ふるさと小樽への愛着や自分や相手を大切にする心、生命を尊重する心情など、豊かな心の醸成に取り組む。

7　道徳教育の充実　（教）「道徳の授業で自分の考えを深めさせる学習活動を日常的に取り入れている」と回答する授業者 90％以上

8　ふるさと教育の充実　副読本や地域の教育資源・人材を活用したふるさと教育を全学年実施

9　読書活動の推進　（児）１日に読書に３０分以上親しむ児童の 75％以上

10　体験活動の推進　（児）地域行事への参加やボランティア活動体験を全児童の 80％以上

11　コミュニケーション能力の育成　（児）「授業での話し合い活動を通して、自分の考えに役立てている」肯定的回答 90％以上

12　いじめの防止や不登校児童の支援の充実　（児）「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の回答 95％

【具体的取組】

① 豊かな人間性を育成するために、全ての教育活動においてアセスメントに基づく個に応じた支援を考え、「生徒指導の機能を生かす」（自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的人間関係を育成する）取組を進める。

② 一人一人に愛情をもった丁寧なかかわりを行い、個々を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高め、自己指導能力を育成していく。

③ いじめ等、問題行動の未然防止、早期解決に向けた取組の充実に努める。

④ 道徳教育において、道徳教育の今年度の重点目標である「自律的に判断し、自ら行動していく態度」・「目標へ向け、希望と勇気をもち、努力しやり抜こうとする態度」の育成へ向けた重点化を図った指導を行うとともに「特別の教科　道徳」の授業の充実を進める。

⑤ 地域の人・自然に課題意識を高め進んでかかわり体験的に学ぶ学習を全学年で実施する。

⑥ 豊かな感性や表現力、想像力をはぐくむため、読書に親しむ環境の工夫を行い、読書活動の推進に努める。

⑦ 「なかよし活動」などの全校児童の学年を越えたつながりを高め、稲穂小への所属感・一体感を育む活動の工夫に取り組む。また、学年を超えた活動において高学年のリーダー性を育て、リーダー学年として６年生を他学年児童に尊敬させる最高学年として育成できる活動及び環境作りの工夫を進める。

（３）健やかな体の育成

健康を保持増進し、体力・運動能力の向上を図るとともに、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるなど、健康教育の充実に取り組む。また、健康的な生活を脅かす感染症などに対する知識や対処するための生活習慣が身に付くように取り組む。

13　体力・運動能力の向上　新体力テスト合計点で全国平均を７割以上の種目で上回る

14　食育の推進　栄養教諭等による食育の授業と「食育メモ」を活用した学級指導の全学級実施

15　健康教育の充実　外部講師による健康や性教育の出前授業を２つ以上の学年で実施

【具体的取組】

① 休み時間に体育館・グラウンドで体を動かす機会を可能な限り確保し、運動に親しむ心を育成する。

② 多様な運動と豊富な運動量を取り入れた体育授業の工夫・実践に取り組む。

③ 個々の運動能力の向上を目指して、校内掲示や体力向上アプリ活用により運動能力向上への課題意識を高め、意欲的に運動に取り組むことや運動習慣の向上へ向けた働きかけを行う。

④ 中学校体育教員や様々な外部人材を積極的に招き、子どもたちに刺激や意欲を与え、運動能力への意識向上につなげていく。

⑤ 自主的に行動していく意識を高めるための「チャレンジ 2024」で体育的取組を年間を通じて実施し、意欲的に運動に親しむ機会をつくっていく。

⑥ 食に関する正しい知識と望ましい食生活を身に付けさせる。

⑦ 安全教育の計画的・継続的な指導を行うとともに、災害や不審者対応など、安全確保の観点からの避難訓練の充実を図り、子どもが自分自身の健康や安全を守る意識を高める自己管理能力の育成につなげていく。

⑧ 外部講師による薬物乱用防止、性教育等の健康教室を実施し、健康的な生活をするために必要な知識や技能を身に付けることができる健康教育の充実を図る。

（４）家庭・地域との連携・協働の推進

「社会に開かれた教育課程」を実践し、教育課程を通して子ども一人一人の未来を保障するために、学校と家庭・地域が連携・協働した組織的・継続的な取組を推進する。

16　家庭教育支援の充実　年間複数回の生活リズムチェックシートの活用と保護者面談での活用 100%

17　学校と地域の連携・協働の推進　（保）「学校は CS として地域・家庭と協働してよりよい学校づくを進めている」肯定的評価 90％

【具体的取組】

あたたかい教育相談の働きかけ

3/25 追加部分

児童理解を深めると、児童個々の特性による児童本人、指導担当、保護者の困り感をなるべく具体的に共有し、効果的な支援方策につなげていく。

①学校側が複数で困り感に寄り添い、保護者の教育相談への対応につなげていき、保護者にとって学校全体のサポートを実感し心強い安心感につながるかかわりを行っていく。
②特別支援コーディネータを中心に組織的な対応を行い効果的な支援方策をさぐり、保護者と連携して教育効果を高めていく。
③特別支援学級、通級指導教室があり、市教委カウンセラーの来校日も増えている環境を生かし、保護者が教育相談をしやすい学校への周知を工夫していく。

家庭と協働した取組

① 望ましい生活習慣への連携協働として「早寝・早起き・朝ごはん」の定着をさらに働きかける。
② 平日に「全く勉強しない」という児童がいなくなるよう全学年で働きかける。
③ 日々の体調管理と新しい生活様式の習慣づけの徹底を図る。

コミュニティースクールとしての取組

① 学校運営協議会において、学校運営推進及び教育活動充実へ向けた地域での取組や地域とのかかわり方について検討し、協働的に進めていく。
② 稲穂小学校安全見守り隊の活動を推進していく。
③ 地域の人材や環境資源等を生かした児童・保護者の子育ての充実や健全育成につながる事業を推進する。
④ 連携・協働の状況を適切に学校の Web ページや通信等を活用し、積極的に情報を公開し、広く理解を得る。

地域の取組

① 情報の共有など協働活動につながる取組の推進を図る。
② 安心・安全な生活へ向けた地域での見守り活動の連携と情報共有を行う。
③ 地域行事や PTA 行事への参加呼びかけや教育活動の連携を行う。

（５）学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現

新たな教育課題に対応するため、教員の資質・能力の向上、学校施設の充実、学校段階間の連携などの改善を進めるとともに、教職員の働き方改革の推進や学校安全教育の充実に取り組む。

18	**学校段階間の連携・接続の推進**	**中学校の授業参観及び小中連携全体会へ教職員参加 90%**
19	**教育環境の整備・充実**	**（教）「学校は働きやすさへ向けた取り組みを進めている」肯定的回答 80%以上**
20	**教職員の資質・能力の向上**	**職能向上につなげるミニ研修を年間 10 回以上実施**
21	**学校運営の改善**	**月 45 時間以上の超過勤務全職員 15％以下**
22	**学校安全教育の充実**	**防犯教室及び防犯訓練の複数回実施**

【具体的取組】
① 事件や事故から子ども自身が身を守ることができる能力（自ら行動する力）の育成を目指した安全教育を行う。
② 子どもの安全・安心を確保する取組と校舎内外の環境・施設の改善と充実を図る。

③ 教員の資質・向上を図る研修の取組を年間を通じて充実させる。
④ 定期的に児童の変容・教育活動を中間検証し、確かな学びにつながる学校づくりを進める。

学校力向上に関する総合実践事業地域指定中核校としての取組

① 花園小学校、西陵中学校、菁園中学校の３校と連携し、高学年の教科担任制を介した包括的な学校改善を推進
② 学校力向上の取組の好事例を市内及び管内･管外へ発信していく。
③ 初任者の育成へ向け「北海道における教員育成指標」に基づく自己評価（自己診断シート）を実施し、ベテラン段階、中堅段階、初任段階それぞれの役割を明確にし、それぞれのキャリアに応じた人材育成を進めていく。

西陵中学校との小中一貫の取組

① 小中一貫教育の取組の充実へ向け目標の共有と具体的な取組の推進を図る。
② 教職員の小中一貫教育への意識と連携関係を高め、児童生徒に関する情報交流を進める。
③ 目指す児童生徒像の実現へ向け小中一貫で生徒指導･学習指導の重点化を図り統一感のある指導につなげていく
④ 「令和の日本型学校教育」の具現化へ向け、目指す授業観を教職員で共有し、ICT の効果的な利活用など共通実践の取組を推進する。
⑤ ９年間を見据えた連続性のある教育課程の編成へ向け、「総合的な学習の時間」の指導計画作成を協働で進めていく。